

に聞く!!

女性も参画リフレッシュ鹿沼



市 長 物置小屋ですね。しばらく使っていましたよ。でもね、市長になったら、皆が気を遣ってくれて、家のことでは、あんまり使われなくなりました。

編集員 一番の自信作はなんですか？

市 長 そうですね。昭和五十年代に入ってから、年齢とか学歴をはずして資格試験にしました。ですから、今でも日報に報告に行くのは女性の課長なんです。あの当時、他(の企業)からは珍らしがられたり、危ぶまれましたが、大丈夫。かえって良かったんですよ。女性が結婚して辞めてしまう、と

市 長 私はね、家では二等兵なんです。何だかんだと言っては、よく使われていますよ。日曜大工的なことが好きなんです。ですからね、ほら晃望台のお店では常連で、よく買ってきては、色々作っています。でもほとんどはものになりません。それとね、庭の手入れはよくやりますよ。バリカンみたいのとか、電動ノコでバサバサとやるんですが、これが完成しても、片方がサッパリしていて片方がボサボサのままって具合です。(全員爆笑)

市 長 私はずっと以前から、職場で男女の区別というのをやりませんでしたよ。昭和四十八年頃からは他社に先駆けて、社内結婚も認めました。結婚しても仕事を続けられるようにしたら、夫婦で共働きというのが、随分増えました。また、昭和五十年代に入ってから、年齢と

編集員 社会に進出する女性が、どんどん増えていきますが、

性別より能力別



市 長 それもあります。例えば、お稽古事をやるのを見ていまして、女性の方が一般に時間でも約束でも、きちんと守っていますよね。真面目で几帳面なんですよ。それに、女性、男性というのにかかわらず、素晴らしいものを持っている人は、いろいろなところにおりますよ。私のかつての秘書なども、女性でしたがね。何事も良く記憶していて、うっかり忘れた、なんてことはしない。また、イエス・ノーも、はっきりしています。ここまではやれるが、ここから先はダメ、というふうに、可能なことと不可能なことをきっちりさせて曖昧にしませんから。

市 長 うん。そういうことだと思いますね。

市 長 そういった視点で行政の面にも女性の能力を生かして、いっていただけると、私たちにとても嬉しいのですが。

市 長 そうですね。だんだんそうなっていくですよ。

本市では、昨年4月に女性課が誕生し、女性のための施策を意欲的に行っています。

今回、女性問題啓発事業の一環として、女性に関する情報紙を発行することになり、公募による6人の女性編集員が担当することになりました。

そこで、市内の女性を代表して新市長のフレッシュな人柄に触れ女性のためのビジョンをお聞かせいただきました。

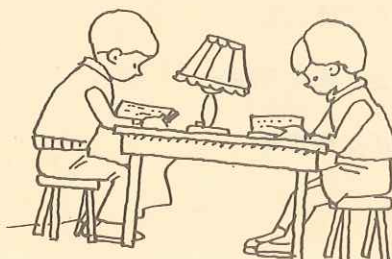
私は二等兵

編集員 市長さんは、お家で料理なんかないですか？

市 長 料理ね。料理は今はやりません。若い頃はやりましたよ。

編集員 まだまだ、お若いですよ。(笑い)

市 長 私はね、家では二等兵なんです。何だかんだと言っ



“座談会” 新市長

これからの地域活動

編集員 地域活動や文化活動の中で、女性の役割をどうお考えですか。

市長 あまり、男の役割り、女の役割りなんて関係ないんじゃないかな。要するにこれから必要とされるのは人の力です。設備や機械はお金で解決できるが、ソフトの面、これは人間でないといけない。特に福祉はそうです。経済的援助や設備の充実より人情味あるサービスをめざしたい。そのためには、個人のもっている能力や時間を最大限に活用できたらいいですね。個性や自由を尊重した上で、思いやりの心を大切にですね。

編集員 具体的にはどんなお考えをお持ちでしょうか。

市長 例えばね、個人の能力や都合のつく時間を登録してもらい、ネットワーク化・組織化

◀ 出席者 ▶
市長 山町町 田沼町 町 鹿沼町 神島町 市 坂西 仁 貝 天 (坂西 神島 天)

武子 子 子 子 子
光美 網美 弘佳
田川 合井 藤藤 入
福石 落金 加齋 塩

なくてはならないと思います。

自らの手で創り出す精神を

編集員 そうするとやはり教育ということが大切ですね。特に家庭教育などは、子供が生まれたら乳幼児期から、しっかりとした家庭教育ができるよう、若い人への教育体制をつくる必要があると思うのですが。

市長 全くその通りです。教育の場を充実することは大切ですね。

編集員 女性の懇談会なども必要なのですが、私、男性をもっと入れた方がいいと思ってるんです。いろいろな年齢層の男性に入ってもらうことによって、また広がりが出ますよね。私だって、機会があれば出たいですよ。

編集員 次に学校5日制になりまして、子どもが、家庭とか地域とかに帰ってきます。今までは、学校教育が主でしたが、これからは、家庭・地域にかかわる教育となりますね。これが本来の姿なのではないでしょうか、この点をどうお考えでしょうか。

市長 私はね、一つの地区を選びモデル地区を作ったらどうかと思ってるんですよ。モデルに選ばれたところは、将来のことを考えて実践してくれると思いますので、その成果は比較的速く広まっていくんじゃないですか。でも、行政でやるばかりでなく、市民の皆さんも自発的に取り組んで、行政と市民が共に「やる」ということが大切ですね。

難しいことですが、「良い」と思うことは、どんどん実行してもらいたい。それと大変勇気のあることだが信念をもって取り組んでもらいたい。街は自分達が創り上げているんだ」という市民意識を一人ひとりが持つてくれるといいですね。

そして、過保護扱いではなく個性を尊重し、自分の手で創り出す精神を育てなければとも思っています。これは、子どもから老人に至るまで必要なことです。

市民に望むもの

編集員 最後に一つだけ、鹿沼市民に望むことがありましたらお聞かせください。

市長 そう、鹿沼の自然や環境を大切にしてもらいたいですね。鹿沼ならではの「良さ」を壊さないようにして。それと、

「私は家では、二等兵なんですよ」との市長の言葉で、緊張した空気がやわらぎました。そして、私の家ではね、とお話しくださる市長の笑顔のうしろに温かく支え合う家族が見えるようでした。

座談会を終えて

常識や型にはまらず、男性も女性も、大人も子供も関係なく、全てひとりの人間として、見る方なのだと思います。

特に、「鹿沼市民に望むこと」はね。鹿沼市を大切にしてほしい。そしてこの街は、自分たちが創るんだという意識を、是非もってほしいですね。」とおっしゃった言葉が、印象的でした。

この言葉は、鹿沼市の行政が、いよいよハード面から、ソフト面に移りつつあることを、感じさせてくれました。

女性問題に取り組む私たちにとって、明るい兆しを感じられました。



市長 そうですね。「この街は自分達が創るんだ」という自覚が必要なんです。市民一人ひとりがその気になって豊かな街創りに参加してほしい。みんながいい街創りをしましょうよ。

編集員 そうですね。何かとても楽しみです。

まだまだお話しをお聞きしたいのですが、時間になりましたので、このへんで本日はお忙しい中ありがとうございました。

すてきな女性



「私の生きる信条はネ、自分の事は後まわし、他人様を最優先して考え、お世話する事かな」と、さわやかにあっさりと言っている女性。楢木町在住の桐生ワカ子さんは、今年80才を迎えられた現役OL。

明治45年5月生まれの子供達は、今現在、南押原郷土児童館の職員をされ、毎日子供達の明るい声を聞きながら、お元気に仕事を続けられています。53才の時に運転免許を取得してから、行動範囲が広まったといえます。15年間腹話術ロボスの会を続けられ、いまま現役で活躍中です。腹話術の人形を操りながら、子供達に「やさしくわかりやすい交通安全指導」を行っています。また、点字歴も20年と永く、多くの若い人達を指導しています。

桐生さんにパワーの源を尋ねてみました。

「粗食にする事です。おいしい物を食べ過ぎるとウンザリしちゃいます。粗食にして少し物足りないけれど幸せを感じる事の方が大事ですよ。」

楢木小学校に入学した子供達には「風車」、卒業する子供達には「お守り」をせっせと手作りし、プレゼントする事も楽しみの一つだと言います。

「私は死ぬその時まで人の為に生きていたいね。」「私は、若い人大好き。鹿沼で活躍している若い方たちのグループと、いつか一緒に公演できたらいいね。」と熱っぽく夢を語る桐生さんの瞳は、少女のように美しく輝いていました。



ひとちも

〈女性問題〉って…?

もちろん、男性が女性と起こした「例の」問題のことではありません。女性が女性であるということだけで、いわずに受ける「差別」や、そこから生まれる、さまざまな問題のことです。例えば、家庭においては、夫は仕事（働いておカネをもらう）、妻は家事や育児（働けれどおカネはもらえない）が当たり前とする考え——性別役割分業という——の固定化。職場にあつては、十分に能力があつても女性であるために責任のある仕事や地位を任せてもらえないとか、社会的な風潮として、女性が個性を活かし、積極的に物事に取りくもうとするとき、「女だから」とか「女のくせに」と意欲をそぐような言動をすることも。これまでも多くの女性は男性の陰にあつて、責任も伴なわな反面、安易で楽な生き方に甘んじてはいなかったでしょうか。今日、急激に変化するこの国の社会を支えていくには、女性の一人ひとりが将来を見通し、自らを変えていかなければなりません。

いつまでも男性に寄りかかり、ぶらさがつては、女も男も共倒れになってしまう。男性もまた、従来の女性観を見直し、女性を従属する性としてとらえず、頼もしく支えあえるパートナーとしてとらえて欲しいものです。

「かれんと」創刊号いかがでしたか。鹿沼初の女性情報紙ということで、命名から内容決定まで、試行錯誤の繰り返しでした。新しいものを生み出す楽しさと難しさ。私たちは、今年ハードで暑い暑い夏を過ごしました。覚つかない足どりで歩きだしたこの「かれんと」をどうか温かく見守り、共に育てていってほしいと思います。私たち編集員は今後とも、共に学びながら、少しでも皆さまのお役に立つ情報紙にしていきたいと思っています。



女性問題を考える

「地区別懇談会」

12地区で

本市では、昭和60年から「女性問題を考える地区別懇談会」を開催し、今年で8年目、計100回近く実施され毎年500名程の参加があります。

今年も12地区で行われ、はじめに「母のたびだち」という映画を観賞しました。

内容は、専業主婦が会社に再就職することによって、それまで平穏だった家族の日常にさまざまな波紋が生じ、それをのり越えて家族の意識が変化していく過程を描いたものです。

各地区の懇談会の意見の中では、この映画は是非男性にも観て欲しいというものと、男女の固定的役割分業意識の是正については、高齢者の方でも、その必要性を感じるという意見が多くありました。

また、この男女の役割問題については、先ずは家庭の中から、そして地域社会へ、さらには社会全体へと進めていかなければならないとの話し合いもなされました。

今後は「地区別懇談会」に、男性もどんどん参加して、「女性問題」を一緒に考え、話し合つて、共によりよい社会を築いていきたいと思います。

(写真は、茂呂2区での懇談会)



女性団体連絡協議会に

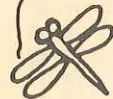
グループ加入しませんか



「市民みんなで学ぶ地域課題学習のすすめ」をスローガンに、明るい社会づくりの活動を実践しています。これからは、女性も男性とともにさまざまな分野に大いに参加しようではありませんか。

豊かな郷土づくりのために、みんなで手をつなぎ合つて学習や活動を楽しみましょう。

あなたのグループの加入を心からお待ちしています。
連絡先 教育委員会女性課 ☎(63)2231・2232



お知らせ



かれんとはみなさんとつくる情報紙です。

- ★地域での出来事
- ★家庭での問題
- ★井戸端会議の内容
- ★すてきな女性をみかけたら…その他。

かれんとを読んだ感想・ご意見・ご希望がありましたらどしどしお寄せください。あなたの声を、多くの人に聞かせてください。

連絡先 鹿沼市教育委員会女性課内
かれんと編集部 ☎(63)2232

